

②

RS 95396
Cincpac-Cincpac
B-27291
OKINAWA 24 July

一三三南西空襲戰鬪要報

昭和二十年一月二十二日
獨逸軍第四旅團司令部

24117

(1/5)

一部ヲ以テ沖繩北同中飛行場附近ニ於テ敵ノ飛行場占領ヲ妨害スルト共ニ主力ヲ以テ島袋周邊ノ高地帯ヲ占領ス

金武灣方面ニ對シテハ敵ノ上陸ヲ妨害ス
敵ノ空中及海上ヨリ企圖スル飛行場占領妨害ノ為ニ飛行場周邊特ニ座喜味附近喜名東方高地及中飛行場東南方一帶ノ高地線ニ於テ夫々直捷飛行場ヲ掩護ス

此際特ニ對空挺火網ヲ整備シ且ト海軍砲隊ニ旅

一、戰鬥經過ノ概况

○天三五海軍電探ニ依リ本座岳基点一三。度七。料ノ地点敵機近接中ナルノ軍情報ヲ受ケルト同時ニ軍ハ空襲警報ヲ祭令セラル

旅団ハ直チニ乙號戰備ニ転移シ敵機ノ來襲ニ備フ敵ハ○天五。ヨリ一八三。ノ間ニ於テ數波ヲ以テ東方ヨリ侵入ストシテ本島飛行場ヲ一部ヲ以テ港灣船舶市街等ヲ銃爆轟セリ

第一波。七。五。一。八。一。間延約一五。機ヲ以テ沖繩北

及小祿飛行場ヲ銃爆轟ス

第二波概ネ八三。ヨリ。九一五。間延約八。機ヲ以テ飛行場及那覇首里等ノ各市街汽瀬熱田沿岸山原船ヲ銃轟北及中飛行場ヲ爆轟滑走路及誘導路ニ十数ヶ所ノ投彈アリ

九〇。北飛行場北側ニ崖茨性ガス彈ヲシキモノ投彈シ。煙色黄色ニシテ詳細調査中

第三波概ネ九二。一〇三。ノ間延約四五機ヲ以テ北中小祿飛行場ヲ銃爆轟ス

中飛行場南旁102北側無名部落ニ被彈炎上ス

國頭支隊ヨリノ通報ニ依テ輸送船彦山九〇。九四。國頭郡本部所渡久地附近ニ於テ爆轟ヲ受テ大破炎上シ本船貨物搭載中ノ下士官以下ノ戦死ニ。重傷。大生死不明十数名。軍需品若干ノ損害アリ

〇九二五七機ヲ以テ津堅島ヲ爆轟ニヶ所炎上ス

第四波一〇。ヨリ概ネ一三〇。ニ亘ル間四機編隊ノ数群ヲ以テ北飛行場ヲ爆轟ス又三機及四機編隊ノ三群ヲ以テ汽瀬熱田附近港灣ニ停泊中ノ山原船ヲ銃轟シ四隻

中東沈没セリ

一二五。四機ヲ以テ首里其那原附近ヲ銃爆裏シ其那原
附近炎上スルヲ望見ス。延約五。機ニ達ス

第五波概ネ一二。ヨリ三三。ニ亘ル間延約二〇機ヲ以テ
那霸及小禄飛行場附近ヲ銃爆裏シ那霸ニケ所
小禄飛行場ニケ所炎上スルヲ見ル

第六波三四。一八四。間延約一。機ヲ以テ北中小禄
場及糸満方向ヲ爆裏内一機ヲ以テ深島燈台ヲ爆裏
約十天機ヲ以テ平安座島ヲ爆裏シ四ケ所炎上セリ(造船所)

本戦中間旅団ニ対空遮蔽掩護ニ勉メ一隊南
地區隊、MGヲ以テ對空射撃ヲ行ヒ一機ヲ裏墜セリ
來襲セル敵機延機數約五五五機ニ達ス

沖繩憲兵隊長ノ通報ニ依リ九月五日憲兵司令官ヨリ最近軍地方ヲ視
察セル參謀本部將校ノ官管内ニ移駐セル軍人ニシテ地方給因乘來
スル程ニ其等ノ性的犯行ニ出スルモノ尠カラス 之ハ為地方有
識者ニシテ傳ハアリト傳ハアリニトテ之ヲ調査方ノ電報ア
リシ由
有テ事實ニ根ニシテ當軍ノ名譽ヨリ損傷スルコト其甚キモノアリ此
ノ種犯行ノ未然防止ニ関シテ軍司令官ノ特ニ要望訓諭セラルル所
ニシテ軍ノ上下擧リテ各々相戒メ來リシ所ナリ
速ニ憲兵司令官ヨリ右參謀本部將校ヲ造言謬語罪トシテ
檢舉セシメテ度
軍ニ亦同特校ノ聽シテ地方有識者ヲ檢舉シタキニ就キ至急通
報相成度依命

二 敵情判断及自己ノ企図

敵ハ我が空軍ノ南方進出ニ由リ其基地タル南西諸島航
空基地ヲ執物ニ攻撃シテ空海ヨリスル我攻撃ヲ封殺セ
ント企図セルモノ、如ク第三十八機動部隊ノ一隊ナルヤ
將又第五十八機動部隊ナルヤ不明ナリ
旅團ハ本夜海上警戒ヲ嚴シ且明日ノ敵機ノ攻撃ヲ封
シ封空処置ニ遺憾ナカラシムルト共ニ尔余ノ作戰準備ヲ
促進セントス

三 乘襲セル敵機ノ種類 裝備 攻撃法

敵機ハ海軍艦上戦斗及爆撃機ニテガモシ
ト研アズシヤナリ
F6Fヘルキ

ニ装備
一ミミリ機銃、小型爆弾及焼夷弾（

重量調査中）北飛行場北側ニ於テ黄色煙ノカス
ミシモノヲ投下セルモ詳細ハ調査中

四 彼我ノ損害ノ概数

一 戦果 撃墜一機（^{11/15/45}）

二 我が損害 防衛地内ニ於テ隼指揮下部隊ニ
テ八人馬兵器彈藥其他被害ナシ

三 山原船一泊瀬田隻沈没 渡具知一隻沈没一隻大破

民 家 讀谷村へ全焼一倒壊 五半壊

北谷村へ全焼

勝連村 四全焼 一半焼

津堅島兵舎ハ事務室外全焼

國頭郡本部町渡久地港ニ於テ島丸 大破炎上シ兵力及糧需

品ニ若干ノ損害アリ、目下判明セルモノ戦死ニ 重傷六 生死

不明十数名、軍需品ハ被服 酒 煙草 需品ニテ目下調

査中

五、射耗彈

機関銃彈

九五發

九九式輕機彈 五〇發

其他調査中

六、所見

1. 敵ノ攻虫主目標ハ依然飛行場ニ指向セラレリ 諸施設ノ

破損特ニ滑走路ノ爆破ヲ實施セルハ我空軍ノ南方方面ハ

ノ増援遮断ヲ企図シアルモノト判断ス

2. 平安座島津堅島ニ對シテモ反復爆虫セルハ單ナル我空

軍中継基地破損企図ノ外將來沖繩侵襲時ノ準備

ト見テ考ヘラル

3. 攻撃法

(1) 敵ハ通常四―七機ノ編隊ヲ以テ各編隊毎ニ目標ハ

空ニ進入シ高度一五〇―二〇〇米附近ヨリ急降下シ高

度一〇〇米附近ヨリ銃虫ヲ開始シ更ニ降下シテ投擲

セリ 然共攻撃回数ヲ重スルニ從ヒ超低空ニテ銃虫ヲ

行ヘリ

(2) 攻虫ニ方リテハ断翼ヲ利用シ侵入及脱去セリ

(3) 船舶ニ對シテハ小型船ト雖モ反復 執拗ニ爆虫スルト

共ニ著明ナル是造物ヲ銃虫セルコトハ空襲時尙シ

戦時死之者、行方不明者ノ報告等特ニ確實性ヲ要求スルモノハ必
ズ書類ヲ以テ報告セラレ度

4. 事務教育ヲ機會アル毎ニ或ルビク多クノ範圍ニ及ボスコト
事務担当者ノ歎死負傷等ニ依リ事務(殊ニ人事關係事務)ニ支障
ヲ來サバル如ク常ニ留意セラレ度

5. 上下左右ノ連絡ヲ密ニ行フコト

ニ内務ノ振肅ニ就テ

之ニ依リ平素

ノ身上調査ヲ細密ニ實施シテ常ニ明カトスルニ置クコト

ヨリ下士官兵ノ固辭ヲ知ルコト共ニ要注意者ノ教育指導ヲ誤ラサル

様留意セラレ度 尚要注意者ノ身上調査常作成ニ関シテハ昭和

手陸密三三九五号ヲ参照セラレ度

之態ノ榮ヲ早ク掃ムコト

温情ヲ煥キ達ヘサルコト

即チ懲賞必罰ヲ以テ臨ミ徒ラニ姑息手段ヲ採ラズ榮ノ時ニ斷

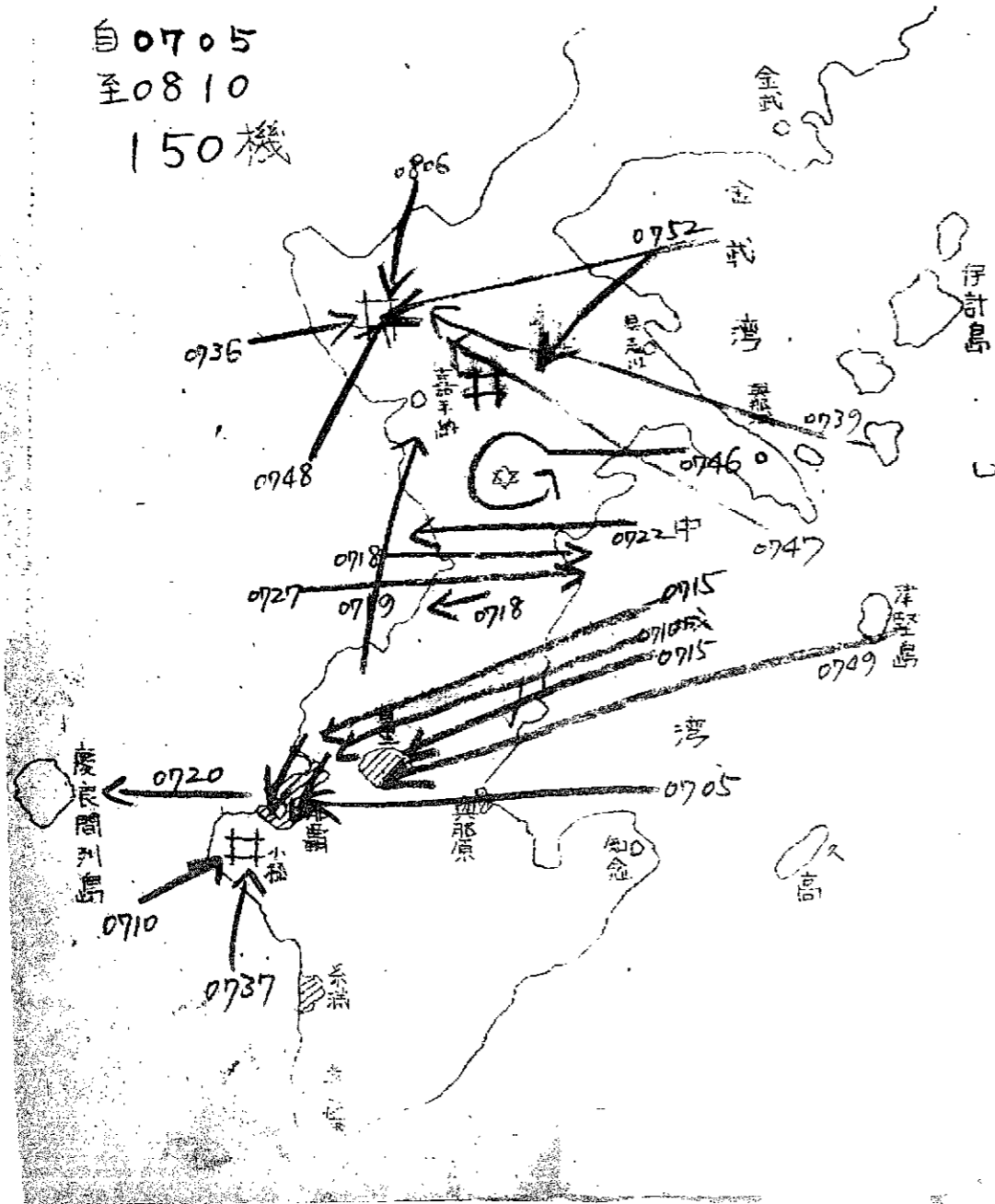
海軍部

敵機航路要圖

第1波

自0705
至0810

150機



第2波

自0830

至0915

80機

